愛にあふれた税金制度

川崎市立東高津中学校３年　　竹久　慶二

僕は、幼稚園の年少から小学３年生まで療育を受けていた。療育とは障害のある子や、人よりも苦手なところがある子が、個々の発達の状態に応じて生きやすくなる様、支援してくれるものである。僕が今、楽しく中学校生活を送れているのは、家族、学校のお友達や先生、そして療育のおかげだと思っている。

先日、家族で療育で出会った素晴らしい先生達との思い出話をしている時、

「あなたが何年も療育に通って、ここまで成長できたのは、先生達はもちろん、税金のおかげでもあるんだよ。」

と、母が言った。僕はどうしてここで税金の話が出るんだろう、と不思議に思った。そして、自分なりに調べてみることにした。

税金は、医療・年金・教育・公共事業など様々なものに使われている。僕達が日本という国で安心して暮らしていられるのは、税金というとても大きな、縁の下の力持ちによって支えられているのだ。税金の力がなければ、僕達の今の生活が成り立つのはとても難しいだろう。

そしてさらに調べていくと、税金は福祉にも大きな役割を果たしていることが分かった。療育に通うには、通所受給者証が必要である。利用料は児童福祉法で定められており、受給者証を取得すると、世帯年収によって上限額が変わる事もあるが、おおむね国と自治体から利用料の９割が給付され、１割の自己負担で療育を受けることが出来るのだ。僕はこのことを知り、とても驚いた。療育にはたくさんの先生達、医師がいて、また施設費などとても多くの費用がかかっていると思うからだ。あの一人一人に合わせた細やかな療育を、１割の負担で受けることができたことに驚き、それは、税金というとても多くの人達の支えがあったんだと気付き、僕は感謝の気持ちでいっぱいになった。福祉に使われている税金は、障害のある子供達の未来へ向けた教育やサポート、働く事が出来ない人への生活の保障など、様々な場面で使われている。このことを知り、税金はとても愛にあふれた制度だと思った。そして同時に、僕が今出来ることは何だろうと考えた。その答えは、

「勉強を頑張ること。」

だと思った。僕は将来、障害があったり、困っている子供達をサポートする仕事に就きたいと考えている。僕が小さい頃、周りの大人の達に、

「あなたはあなたのままでいいんだよ。」

と言われたことを、未来の子供達にも伝え、少しでも力になりたいと思うからだ。そして、その夢を叶えるために、今は勉強を必死で頑張ることが大切だと思った。

将来、僕が大人になった時は、税金をしっかり納めることで、愛のあふれる社会での、縁の下の力持ちの一員になることを誓う。